

兵庫県版

# 日本の息吹

版 第二三三号 令和元年七月（皇紀二六七九年）  
 七月二十五日発行 日本会議兵庫県本部事務局  
 六五〇・〇〇一五 神戸市中央区多聞通三・一・一  
 兵庫県神社庁内（〇七八・三四一・一一四五）  
 HP <https://www.nipponkaigihyogo.org/>  
 メール [nipponkaigihyogo@gmail.com](mailto:nipponkaigihyogo@gmail.com)



## 《女性の会》

荒谷卓先生講演会報告

講演「さむらい精神を復活せよ

〜君民一体の國 日本〜

令和元年七月七日(日)



あらやたかし  
 荒谷卓先生は、日本人としてのと人々と幸せの為に一日も欠かすこ  
 自覚をどうやって深めるかという となく朝に夕に全身全霊で祈りを捧  
 と、神武天皇の「天の下に一つの家 げられる唯一無二の御存在です。国  
 を創り為す大和社会の建設」という 民を思う天皇陛下の大御心に報恩感  
 八紘為宇の国家建設の理念に立ち戻 謝の念おもいをもって日々力を尽くす、  
 らないと分からないと話されました その君民一体の心の絆が日本とい  
 た。主体的に自分の国を自分で守る 国家を形成する原理であり、国体で  
 には神話を学ばねばならない。神代 あると話されました。  
 の宇宙観が最新の宇宙観であること さむらい精神とは、天皇の大御心  
 や、天御中主神から連綿と続く命の を範はんとする精神で、自分の為には  
 連なりが日本人であり、宇宙の全て なく世の為人の為に力を尽くす、そ  
 のものと繋がる命であるという大和 やまと の命の積み重ねが、連綿と続く歴史  
 の一元論には心の高鳴りを覚えまし の中で、この国を護り、築いて来て  
 た。  
 天皇陛下は、在所共同体を支える 下さったのだと知り、それに続いて  
 人々をしろしめし、深い信頼と敬愛 いきたいと思いました。  
 をもって、国家(在所共同体)の弥栄 混迷をきわめる今日の国内外の状  
 況の中で、私達一人一人、日本人自

## 《 7月25日以降の日本会議兵庫関連団体の主な催物 》

○

らが、日本の伝統的精神文化をしつかりと学び、この崇高な価値観に目覚め、誇りをもって、喪われた国家観を取り戻していく。そのことが、国を守り、世界のリーダーとなっていくことだと強く思いました。

最後に、本講演会は二〇〇名を超え、改めて国民の、自衛隊への期待と緊急事態対応への関心の高さ、さらには憲法九条を変えねばとの思いの強さを示すものとなりました。

（藤波 礼子）

### 《阪神北支部 定時総会》

統一地方選そして二〇二二年ぶりの先帝の御譲位による御代替わりがありそれに伴う新元号の制定、奉祝ムードも落着いたかと思われる去る六月八日（土）、我が支部では本年度の定時総会を開催した。

この月はずっとと企業等の総会月でもあり、さらに大阪でG20が開かれ、その先に県本部総会、参議院選が控えている上、時として衆参同日選の声も囁かれるなど世間全般に慌ただしさが感じられるところから、幾度も集会を持つ事の難しさを想定し日本会議支部総会とは一線を隔した上で、美しい日本の憲法をつくる兵庫県民の会・国民投票連絡会議と共催の形をとり憲法フォーラムを実施した。

特に今回は女性に集っていただけ、日常身近な話題に「改憲の必要性」が迫っていることを取り入れて頂くべく、「専門的な知識」より「やさしく分かり易い」内容で、お茶お菓子を頂きながら語り合える雰囲気のを想定して女性講師をと、美しい日本の憲法をつくる福岡女性の会の村上かおり先生をお招きして



「この国を守りたい・・・今私たちにできること」とのタイトルでお話し願った。

柔らかく丁寧な身近な話題などでも交えつつ話して頂き分かり易かったとの感想を得られたが、何分にも新人の勧誘が思うに行かず、四〜五名にとどまり時間と労力を惜しまず、憲法改正が平和と安全につながっていく。ことを一人一人に伝えてゆくしかないと思われた先生の言葉どおりだと思

う。

（阪神北支部事務局長

金岡 俊彰）

### 《西宮・芦屋支部

### 定時総会》

六月二三日（日）に西宮北口の「なでしこホール」にて行われました。事業報告及び決算、事業計画及び予算とともに役員の承認がなされました。また、総会のあと、公開憲法フォーラムを実施し、『今日の国際情勢と憲法改正』というテーマで、石 平氏に講演いただきました。石 平氏の熱い講演は、今日の中国の覇権主義がもたらす日

本の危機を力強く訴えかけられ、G HQの影響下で作られた日本国憲法の条文が記す日本語に比べたら、私の日本語の方がどんだけ上手いか！と、絶好調なしゃべり口調で聴衆を捲き立ててくれました。この憲法改正のチャンスを参議院選挙後、いかに実現へと持っていくのか、我々の行動に掛かっているのだという決意を新たにいたしました。

